令和６年度行動計画の進捗状況について

１　概要

・令和５年度行動計画の進捗管理と同様に、第４期中期目標期間に係る業務実績の評価から評価指標の達成状況に重きが置かれることから、令和６年度においても評価指標を中心に確認を行った。

・具体的には、担当理事・副学長、担当事務部による令和６年度実績の自己評価を踏まえ、学長及び評価担当副学長によるヒアリングを行い、最終的な進捗状況の確認を行った。

・その結果、令和６年度行動計画（全 47 計画）の進捗状況は以下とおりであり、概ね予定どおり進捗している。

評定	計画数	割合
計画が予定を超えて進捗している。	10	21%
計画が予定通り進捗している。	25	53%
計画の達成に向け強化が必要。	12	26%

２　優れた取組・特色ある取組

（１）社会共創推進の取組

①やまがた社会共創プラットフォームの体制強化

「やまがた社会共創プラットフォーム（通称：やまぷら）」協議会の直下に事業実施部門として、リカレント教育推進部門、地域課題解決・価値創出部門、高等教育機関連携部門（大学コンソーシアムやまがた）を設置し、これらの３部門により、やまぷらの基本方針と初期戦略に則った事業計画を迅速に推し進められる体制の強化を図った。

具体的な取組内容

＜リカレント教育推進部門＞

・やまがた共創塾「地域産業コア人材育成プログラム」（令和６年度新規事業）

文部科学省「地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築支援事業」の支援を受け、県内企業の成長をけん引していくコア人材の育成を目的として、5 か月（5 月～10 月）・60 時間・受講料 20 万円のリカレント教育プログラムの開発し実施した。山形県内 17 社から計 19 名の受講生が体系的に学び修了した。

集合写真

プログラムの様子

＜高等教育機関連携部門＞

・やまがた進学大交流フェスタ in 新庄（令和 5 年度から継続事業）

令和 6 年 12 月 8 日に、山形県内の中高生の保護者等を対象とした基調講演やシンポジウムを開催した。令和 6 年 4 月に開学した東北農林専門職大学を会場に対面及びオンラインによるハイブリッド形式で行い、当日は約 60 名の方々に参加いただいた。なお、村山地域以外で初開催となった。

当日の様子

各ブースの様子

＜課題解決・価値創出部門＞

・やまがた社会共創ワークショップ（令和 4 年から継続事業）

令和 6 年 11 月 8 日に「やまがた社会共創ワークショップ in 長井」を開催し、27 名の参加があった。「長井市の地域戦略とこれからのまちづくり」をテーマに、世界・日本・長井市の視点で見たときのこれからの展望や、未来を見据えた長井市における教育・産業・行政等多岐にわたる取り組みについて講演をいただいた。第 2 部では、本学人文社会科学部の柿崎慎也准教授をファシリテーターに、「若者の住みやすいまちづくり」というテーマのものとグループワークを行った。

基調講演の様子

グループワークの様子

②山形国際交流人材育成協議会での取組

産学官の事業資源を持ち寄りながら、県内で学ぶ学生と社会人を対象にグローバルな視野を持って地域発展に貢献できる人材育成を一元的に推進した。留学生と会員企業社員が共に学ぶ日本語教育講座、留学生向けのキャリア開発講座、インターンシップ、県内企業見学バスツアーを実施し、留学生と社会人合わせて延べ 560 人が参加した。

また、地域留学生数の増加を図るため、東京都内の日本語学校で開催された進学フェアに参加し、

84 名（5 校）の参加者に山形県の修学環境をアピールした。

さらに、留学生の採用実績を有する会員企業が限られている中、それらの会員企業が公のセミナー等で公表しうる情報も限定的である現状を踏まえ、関連情報・ノウハウの会員企業間の需給を調整した上で個別面談会（2 社参加）を実施した。

本学卒業生（留学生）から企業説明を受ける様子

キャリア開発講座の様子（留学生の面接練習）

③全学体制による教育プログラムの実施

地域共創 STEAM 教育推進センターやエクステンションサービス推進本部、アントレプレナーシップ教育研究センターを中心に、初等中等教育関係機関や産学官金が連携した教育プログラムを開発し地域に展開している。

地域共創 STEAM 教育推進センターでは、「やまだいキッズラボ！」といった、主に地域の小中学生を対象とした理科・科学実験教室を開催しており、326 名（複数講座合算）に参加いただいた。

エクステンションサービス推進本部では、「人生 100 年時代を見据えた金融リテラシー講座」や「日本語教育文法ワークショップ」等を開催した。エクステンションサービス推進本部では令和 6 年度は新規に 5 件のリカレント教育プログラムを実施しており、継続分を合わせて 10 件、116 名（参加者合計数）に参加いただいた。

アントレプレナーシップ教育研究センターでは、「スーパーエンジニアプログラミングスクール」や「人材育成プログラム 2024 新事業創出イノベーションプログラム」など高校生や大学生、社会人向けに教育プログラムを実施した。

＊記載の教育プログラムは、いずれも令和 6 年度実施分から抜粋。

やまだいキッズラボ！の様子 1

やまだいキッズラボ！の様子 2

（2）教育推進の取組

①ダイバーシティ関係授業科目の開講

各学部や基盤共通教育科目において、多様性への理解を促進するためにダイバーシティ関係授業科目を開講している。令和 6 年度は 2,971 人（延べ人数）の学生が受講しており、年度目標値である 1,500 人を大きく超える結果となっている。

②学生の立場に立ったサポート体制

学生に対する生活支援策の創設として、物価高対策、国消国産、地産地消の観点から、令和 6 年度新たに山形県産の食料品の配布を 10 月 16 日に小白川キャンパスで実施した。

また、学生の意見を反映した環境整備の取り組みとして、学生サークルの施設設備の改修やサークル部屋の再配分、飯田キャンパスにおける体育館の床張替え・グラウンドの土入れ等を行い、学生が有意義に活動できる環境を整えた。

（3）研究推進の取組

①世界をリードする研究への重点支援

本学が世界をリードする研究へ重点支援するとともにその可能性を有する拠点への支援として、YU-COE（山形大学先進的研究拠点）の S の 7 拠点、C の 5 拠点へ支援を実施した。また、若手研究者の支援強化という観点から YU-COE（M）の拠点数を 15 拠点に増加し、重点的に支援した。

令和 5 年度に続き、令和 6 年度も実施した異分野交流学会では C 拠点のリーダーから研究発表を行う等、更なる拠点拡大に向けた機会を提供した。これらの取組により、YU-COE において獲得した外部資金は 12.4 億円にものぼり、令和 6 年度目標値であった 8.8 億円を大幅に上回る結果となっている。

②未来を先導する社会実装の推進

山形大学 T-CEP やアクセラレータプログラムを体系的に行い、技術シーズの社会実装への意識の醸成等を行うことでベンチャー企業の新規立ち上げの支援を行っており、令和 6 年度の山形大学発のベンチャー企業立ち上げ数は 4 件であった。

また、アントレプレナーシップ教育研究センターにおいて、i-HOPE や SEPS 等、社会人から中高生まで幅広く対応したプログラムを実施し、人材育成を図っていることや、知財戦略プロデューサーと協業して、大学が保有している特許の強みを把握し、今後の取得すべき特許の在り方を議論することにより、ベンチャー企業立ち上げの機運醸成にも繋がっている。

実施許諾特許件数（国内・海外権利数）においても、令和 6 年度は 146 件と年度目標値である 55 件を大幅に超える結果となっている。

（4）高度先進医療の提供

重粒子放射線治療について、年々治療患者数が増えており、令和 6 年度には目標値を大きく超える 684 名となった。令和 6 年 6 月から新たに 3 つの疾患が重粒子線がん治療の公的医療保険適用に加わり、合計で 11 の疾患が保険適用となったこともあり、重粒子センターで治療を希望する患者は北海道や北東北も含めて継続的に増えていくものと予測される。

また、令和 6 年 11 月 9 日に初の試みとなる「オープンセンター」を開催し、加速器・ガントリー、治療室に至るまでセンター内部を一般公開した。重粒子線がん治療と、それを支える設備や科学技術について広く一般に伝えることができている。

さらに、令和 6 年 12 月 15 日には医用原子力技術研究振興財団との共催で、3 回目となる一般公開セミナーを「やまぎん県民ホール」で開催し、400 名の傍聴者を迎えた。同年 9 月 30 日に開催した青森セミナー同様に、地元マスメディアと連携することで、事前 PR・再録記事の発行・web 配信等を実施しており、重粒子放射線治療の認知度や理解の向上に努めている。

低侵襲治療では、山形県内の医療機関から積極的に先端医療、低侵襲治療に適応のある患者を受け入れ、実施件数の伸長を図っている。

がん遺伝子パネル検査については、最新の情報を掲載したがんゲノム医療管理室ニュースを年 4 回発行し、県内の主要病院に送付している。さらに、パネル検査担当医師および担当看護師によるパネル検査に関する説明会を院内の新規採用職員研修時（参加者 113 人）に実施している。また、県内主要病院での説明会開催に向けた説明会用冊子及び DVD を令和 6 年度に作成した。

評価指標	令和 6 年度目標	令和 6 年度実績
重粒子線治療患者数　600 人/年 ＜達成時期：令和 9 年度まで＞	600 件	684 件
先進医療及び低侵襲治療患者数　225 人（令和 4 年度から令和 9 年度までの 6 年間の平均値） ＜達成時期：令和 9 年度＞	225 件	553 件 （先進医療 260 件、低侵襲医療 293 件）
がん遺伝子パネル検査実施　140 件（令和 4 年度から令和 9 年度までの 6 年間の平均値） ＜達成時期：令和 9 年度＞	140 件	282 件 （うち、院外紹介 76 件）

回転ガントリー照射室にて説明を受ける参加者

回転ガントリー照射室の裏側の見学

（5）業務運営

①ステークホルダーや学外者、学生に向けた情報発信

学長定例会見や広報誌「みどり樹」及び学内向け広報誌「ぱれっと」の発行、WEB マガジン「ひととひと」の更新（新任役員の紹介のシリーズ化)、文教速報・文教ニュース、SNS 等を用いて継続的な情報発信を行っている。学内に向けては、学内報「ぱれっと」を大幅リニューアルし、教職員参加型の紙面を発行し、多数の反響を得ることができた。

また、学生広報部の委嘱、新たにインスタグラムの運用開始及び目標を上回る記事投稿により学生目線の広報強化を図り、全国放送の朝の番組において学生の活動を紹介したり、学長と学生が地元企業を紹介する地方テレビ局の番組のシリーズ化に協力するなど、本学の社会貢献の積極的な発信や、幅広い層・地域に向けた情報発信を行うことができている。

②全学一丸となったデジタルトランスフォーメーションの推進

第 2 次山形大学デジタルトランスフォーメーション推進計画に則り、令和 6 年度は情報基盤部門、教育部門、研究部門、業務・人材育成部門の 4 部門において以下のとおり実施した。

＜情報基盤部門＞

・統合 ID 管理システムを導入し、令和 6 年 10月から運用を開始した。業務システムと認証連携を一元化した。システム毎に行っていたユーザー管理を一元化することにより、連携システムの業務軽減となり、また、ID を統合したことにより、利用者の利便性が向上したと考えられる。さらに、２段階認証の導入により各種システムが学外から安全にアクセスすることが可能となった。

・全教職員向けの研修管理システム（LMS）を導入し、令和 6 年 10月から運用を開始した。研修管理を導入することにより、個々の受講管理が行なえるようになり、また、未受講の研修の確認等、研修受講方法が統一され、利用者側の利便性が向上したと考えられる。令和 6 年度の実施件数は 12 件であった。

＜教育部門＞

・ミニッツペーパーやレポートの採点など採点 AI システムの導入について、現時点で利用可能な採点 AI システムを調査し、比較・検討し、候補システムを選定した。次年度の試行に向けて、選定した候補システムを本学の仕様に合わせるための初期開発を推進した。

・本学に適した教育管理システム（LMS）の導入について、WebClass 及び Moodle の機能や他大学の導入状況等に基づき、メリット/デメリットを比較し、導入についての検討を行った。

＜研究部門＞

・実験機器共同利用システム及び研究ポータルサイトを導入し、令和 6 年 4月から運用を開始した。研究ポータルサイトに英語翻訳機能、アクセスレポート機能を追加したことにより、情報発信力が強化できたと考えられる。

［実験機器共同利用システム利用実績］登録機器数：329 台、学内延べ 13,640 名、学外延べ 104 名

［研究ポータルサイト投稿件数］51 件

・研究管理業務の DX 化について、各キャンパスに聞き取りを行い、業務手順状況の確認を実施した。

＜業務・人材育成部門＞

・令和６年５月に WEB 発注システム（A-SOM）を全学稼働開始した。本システム経由で発注した場合，従来の購入依頼システムの入力手続きが簡素化された。本システムの利用率は，物品購入の内 20%超となっている。

・情報系資格取得者支援として、IT パスポート試験学習教材、情報技術者試験教材提供を行うとともに、受験料の補助を行った。令和７年３月末までの累計合格者は IT パスポート試験が８名、情報セキュリティマネジメント試験が４名、基本情報技術者試験が２名となっている。

国家試験「情報処理技術者試験」については、令和６年度は５名が合格した。これにより、令和４年度からの累計合格者数が 14 名（実人数 10 名、重複合格あり）となり、目標値を大きく超える結果となった。

・各種デジタルツールの活用に向け、過去に実施されたオンライン勉強会のアーカイブ配信を実施するとともに、外部教材を活用した Excel のオンライン研修を実施した。(事務職員向け EXCEL オンライン研修受講者：204 名、オンライン勉強会のアーカイブ配信閲覧者：419 名（延べ人数))

・インターネット入学手続きシステムを導入し、令和６年 11 月から運用を開始した。システム導入により、印刷・郵送代の削減、各学部入試担当の業務軽減、入学料や諸会費の納入方法の簡素化、合格者の利便性向上が図られたと考えられる。

３　令和６年度行動計画進捗状況一覧

行動計画	達成状況
＜重点計画＞	
【重点計画 1】教育改革の促進	計画が予定通り進捗している
【重点計画 2】入学者選抜方法と戦略的な入試広報の推進	計画が予定通り進捗している
【重点計画 3】全学機能の強化による国際化の推進	計画が予定通り進捗している
【重点計画 4】質の高い研究時間確保に向けた取組の推進	計画が予定通り進捗している
【重点計画 5】法令遵守、ハラスメントの無いキャンパスの創成	計画が予定通り進捗している
【重点計画 6】内部質保証システムの総点検の実施	計画が予定通り進捗している
＜社会共創＞	
【1-1】山形大学がリードする社会共創	計画が予定を超えて進捗している
【1-2】地域社会を活性化する多様な人材の育成	計画が予定を超えて進捗している
【1-3】地域価値創出の中核となる事業の推進	計画の達成に向け強化が必要
【独自の行動計画】YU empowering with SDGs の加速	計画が予定を超えて進捗している
＜教育＞	
【2-1】知識集約型社会の新たな「学び」を推進する教育改革	計画が予定通り進捗している
【2-2】教学マネジメントの充実	計画が予定通り進捗している
【3-1】改組の効果検証に基づく教育プログラムの改善	計画の達成に向け強化が必要
【3-2】高度専門人材育成課程での実践的能力養成のための取組	計画が予定通り進捗している
【4-1】教育プログラムの見直し	計画の達成に向け強化が必要
【4-2】産業界等と連携したキャリア支援	計画の達成に向け強化が必要
【5-1】医師・看護師養成課程の高度化	計画が予定通り進捗している
【5-2】教職課程の質保証	計画が予定通り進捗している
【6-1】学生のグローバル交流拡大	計画が予定通り進捗している
【6-2】多様な留学生の受入れ体制の充実	計画の達成に向け強化が必要
【7-1】多様な個性を持つ学生に対する理解を高める取組	計画の達成に向け強化が必要
【7-2】学生の立場に立ったサポート体制の充実	計画が予定を超えて進捗している
【独自の行動計画】学生が主体的に行うプロジェクトへの支援	計画が予定通り進捗している

＜研究＞	
【8-1】自律的な研究の推進	計画が予定通り進捗している
【8-2】先端的研究を目指した組織化の推進	計画が予定を超えて進捗している
【9-1】本格的な産学官連携の推進	計画の達成に向け強化が必要
【9-2】未来を先導する社会実装の推進	計画が予定を超えて進捗している
【独自の行動計画】研究コミュニティの創出	計画が予定通り進捗している
＜附属学校＞	
【10-1】実践的な実習・研修の場の提供	計画が予定通り進捗している
【10-2】地域における先導的な教育モデルの開発	計画が予定通り進捗している
＜医療＞	
【11-1】高度先進医療の提供	計画が予定を超えて進捗している
【11-2】地域と連携した医療人の養成	計画の達成に向け強化が必要
＜業務運営＞	
【12-1】内部統制機能の実質化	計画の達成に向け強化が必要
【12-2】学内外の知見を法人経営に活かす取組	計画が予定を超えて進捗している
【13-1】施設マネジメントの機能強化	計画の達成に向け強化が必要
【13-2】地域を活性化する公共財としての大学資産活用	計画が予定通り進捗している
【14-1】安定的な財務基盤の確立	計画の達成に向け強化が必要
【14-2】学内資源配分の最適化	計画が予定通り進捗している
【15-1】自己点検・評価の法人経営への活用	計画が予定通り進捗している
【15-2】ステークホルダーとの対話の推進	計画が予定を超えて進捗している
【16-1】全学一丸となったデジタルトランスフォーメーションの推進	計画が予定通り進捗している
【16-2】情報マネジメント体制の更なる強化	計画が予定を超えて進捗している
【16-3】真に働きやすい大学の実現	計画の達成に向け強化が必要
＜人事に関する計画＞	計画が予定通り進捗している
(1)コンプライアンスに関する計画	計画が予定通り進捗している
(2)安全管理に関する計画	計画が予定通り進捗している
(3)マイナンバーカードの普及促進に関する計画	計画が予定通り進捗している